

2020 年度  
東京大学大学院情報学環  
教育部シラバス

## 特別講義（教育部概論）

暦本純一教授、沼田宗純准教授、武藤香織教授  
高木聡一郎准教授、大庭幸治准教授、上條俊介准教授

S1S2 ターム 水曜 5 限（2 単位） 時間割コード：5A501002

### 授業の目標・概要

まず、ユニークな特性を持つ教育部というプログラムの歴史を跡づけ、そこで研究生になるということの意義を確認する。

そのうえで、情報学環を構成する多様な研究者が、おおむね 2 回ずつそれぞれの専門領域について概説する。なお、下記には学際情報学府における各研究者の所属コースが記されているが、講義のなかでコース全体の概説するわけではなく、あくまで各自の専門領域についての講義となる。

情報学環、および教育部の全体像を理解してもらうために 2013 年度にはじめて開講された授業。1 年生はなるべく履修してほしい。

講師毎に A4 用紙 1 枚のコメント・レポートを提出（合計 5 回）。出席とそれらの内容を総合的に勘案して成績評価する。

### 参考文献

- ・各講師が適宜、紹介、説明する。

### 授業計画

第 1 週	4/8	暦本 純一（総合分析情報学コース）
第 2 週	4/15	暦本 純一（総合分析情報学コース）
第 3 週	4/22	沼田 宗純（先端表現情報学コース）
第 4 週	5/7	沼田 宗純（先端表現情報学コース）
第 5 週	5/13	武藤 香織（文化・人間情報学コース）
第 6 週	5/20	武藤 香織（文化・人間情報学コース）
第 7 週	5/27	高木 聡一郎（社会情報学コース）
第 8 週	6/3	高木 聡一郎（社会情報学コース）
第 9 週	6/10	大庭 幸治（生物統計情報学コース）
第 10 週	6/17	大庭 幸治（生物統計情報学コース）
第 11 週	6/24	予備日
第 12 週	7/1	予備日
第 13 週	7/8	予備日
第 14 週	7/15	予備日

# メディア・ジャーナリズム論文献講読VI

(報道倫理、メディア法)

松原 妙華 助教

S1S2 ターム 水曜4限(2単位) 時間割コード: 5A102006

## 授業の目標・概要

この講義では、報道倫理の中でも、特に取材源秘匿や記者と取材源との間の信頼関係の構築についてみなさんと議論をします。取材・報道のあり方が問題となった事件について、裁判例などの法律文献を中心に講読することを通して、その事実概要および法的判断を学び、さらに、法的判断と他文献とを対照しながら、報道倫理および日本のジャーナリズムについて考えることが目標です。

受講生は、指定の文献および関連する論文等を読むとともに、担当部分のレジュメ作成・報告を行い、授業内でのディスカッションに参加することが求められます。また、文献講読とあわせて、取材源となった内部告発者の方や報道に携わる記者の方をお招きし、取材源と記者との関係について当事者の方とお話する機会をもうける予定です。

## 教科書

・各事件の裁判について、データベース (LEX/DB インターネット) 上の各判決 (決定) 全文を使用します。

・長谷部恭男・山口いつ子・宍戸常寿編『メディア判例百選 [第2版]』(有斐閣、2018年)

<http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/9784641115415>

## 参考書

・中野次雄編『判例とその読み方』(有斐閣、2009年)

<http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/9784641125346>

## 授業計画

- 第1週 ガイダンス、データベースを利用した判例・裁判例の調べ方
- 第2週 取材源と記者の関係
- 第3週 取材源の主体性
- 第4週 沖縄差別と報道
- 第5週 国家機密と知る権利
- 第6週 取材源の秘匿
- 第7週 公益通報者保護法と取材源の保護
- 第8週 内部告発と報道1 (ゲストスピーカー)
- 第9週 内部告発と報道2 (ゲストスピーカー)
- 第10週 取材対象者の期待と信頼
- 第11週 性暴力被害と報道
- 第12週 編集権と内部的自由
- 第13週 まとめ

## 情報社会論実験実習V

(テクノロジーを活かしたコンテンツ・ユーザ体験のデザイン)

渡邊 英徳 教授

S2 ターム 木曜4・5限(4単位) 時間割コード: 5A304005

### 授業の目標・概要

本講義では、私たちの身の回りに浸透しつつあるテクノロジーを活かしたコンテンツ・ユーザ体験のデザインについて、グループワークによる実践を通して考えます。VR・ARなどの、かつて先鋭的だったテクノロジーは、徐々に社会に浸透し、コモディティ化しつつあります。例えば、デジタルアースを使って地球の裏側の街を探索したり、スマートフォンカメラに映し出されたAR空間にモンスターを探すといった経験は、私たちにとって、すでに日常的なものになっています。こうしたコンテンツを、「ユーザ」としてただ利用するだけではなく、独自の視点をもつ「クリエイター」として、新たなプロダクトをつくりだすことによって、テクノロジーが人と社会に与える影響について、より深く考え、投企することができるはずですが。本講義では、テクノロジーを活かしたコンテンツの中でも、特に「デジタルアーカイブ」のデザインに、それぞれグループで取り組みます。

### 参考書

渡邊英徳：「データを紡いで社会につなぐ」，講談社，2013年

### 授業計画

授業期間中に、2つのデジタルアーカイブ制作課題に取り組む予定です。履修者のスキルに合わせて、課題の内容を決定します。

# メディア・ジャーナリズム論実験実習Ⅷ

(ドキュメンタリー制作入門)

日笠 昭彦 講師

(元日本テレビ「NNNドキュメント」プロデューサー・L L C創造ノ森 代表)

A1A2 ターム 木曜6限(4単位) 時間割コード: 5A104008

## 授業の目標・概要

◇福武ホール(地下2階)ラーニングシアターやメディアスタジオを活用した3~4回の対面授業と、オンライン授業10回程度(リアルタイム配信)の【ハイブリッド方式】で行います。授業では、映像表現に関する基礎的知識や手法について講義するとともに、学生は手元にあるスマートフォンやパソコンを使って、3~5分のミニドキュメンタリーを制作。映像ジャーナリズムを体感します。

◇第一回目10/1の対面授業で、「私が直面したコロナ禍」「ウィズコロナの時代に」「戦後75年」などといった大枠のテーマを決め、第二回目10/8のオンライン授業では、個別に企画案を発表してもらいます。

◇映像プロデューサーである講師は制作上の助言をしますが、個々の撮影~編集~仕上げは授業外の時間に進めてもらいます。

\*パソコンで映像を編集することなどが困難な学生は、環境が整っている学生とチームを組んで制作を進めます。

\*完成作品は1月に全員で鑑賞し、制作者と視聴者(他の学生)の意見交換をします。

\*内容によっては、各審査会に出品し客観的な評価を得ます。

⇒昨年は3~4人のチームを編成して15~20分程度のドキュメンタリーを制作。うち1作品《排除ベンチ~居心地の悪さをたどって~》が「地方の時代 映像祭」優秀賞を受賞。

## 参考書

「映像メディアのプロになる！」奥村健太・藤本貴之著/藤原道夫監修(河出書房新社)

「書く力~私たちはこうして文章を磨いた~」池上彰・竹内政明 著(朝日新聞出版)

## 授業計画

- 10/1 《対面授業》講義「ドキュメンタリーの作法」◇制作上の注意 ~番組テーマを決定
- 10/8 【オンライン授業】企画プレゼン① 各学生が企画案を発表~ディスカッション
- 10/15 【オンライン授業】企画プレゼン② 各学生が企画案を発表~ディスカッション
- 10/22 【オンライン授業】「構成要素の洗い出し~仮構成~撮影」を繰り返し、映像を記録する
- 10/29 【オンライン授業】「構成要素の洗い出し~仮構成~撮影」を繰り返し、映像を記録する
- 11/5 【オンライン授業】「構成~仮原稿を作成~編集」を繰り返し、映像を編集する
- 11/19 《対面授業》「中間試写会」◇制作途中の作品を見て修正箇所をディスカッション
- 11/26 【オンライン授業】「構成~仮原稿を作成~編集」を繰り返し、映像を編集する
- 12/3 【オンライン授業】テロップや効果を加え編集を仕上げる~ナレーション原稿を精査
- 12/10 【オンライン授業】テロップや効果を加え編集を仕上げる~ナレーション原稿を精査
- 12/17 【オンライン授業】ナレーションや音楽を加え、作品を完成させる
- 12/24 【オンライン授業】ナレーションや音楽を加え、作品を完成させる
- 1/14 【オンライン授業】又は《対面授業》「完成試写会①」完成作品の上映
- 1/21 《対面授業》「完成試写会②」完成作品の上映とジャーナリズム実習のふりかえり

## メディア・ジャーナリズム論研究指導Ⅱ

(災害情報・調査法：東京電力福島第一原子力発電所事故の調査・研究)

関谷 直也 准教授

A1A2 ターム 月曜 4 限 (4 単位) 時間割コード : 5A103002

### 授業の目標・概要

東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故から 10 年が経過しようとしています。この震災、原子力事故の被害、復興の課題、困難をどのように伝えていくか、これは非常に大きな課題です。

ジャーナリズムを学ぶみなさんにとっても、この課題は今後数十年続いていくことになり、現在の 10 年の課題を理解しておくことは、また①福島原発事故や東日本大震災の教訓をどう伝え、今も残る課題にどう対処すべきか、②今後の災害や危機を考える上で基礎として、③さかのぼって広島・長崎の原爆、沖縄問題などをどう考えていくべきかを考える契機にもなる非常に重要なタイミングだと考えています。

この演習では、11 月 20 日 (金)、21 日 (土)、22 日 (日) に東京電力福島第一原子力発電所、東京電力廃炉資料館、東日本大震災・原子力災害伝承館、浪江町の諸施設を訪れ、「災害を伝承していくこと」「災害をコミュニケーションしていくこと」を考えてもらいます。前提知識は必要としませんが、研究指導ですので本テーマに関心・興味があることを前提とします。

### 参考書

必要に応じて授業内で紹介する。

### 授業計画

下記、(1)～(4)のガイダンス、現地見学、報告会のすべてに参加することを条件とする。

#### (1) ガイダンス 1

9 月 28 日 (月) 14 : 55～

#### (2) ガイダンス 2

日時未定

#### (3) 現地視察

11 月 20 日 (金) 東京電力福島第一原子力発電所、東京電力廃炉資料館見学

11 月 21 日 (土) 東日本大震災・原子力災害伝承館、浪江町の諸施設見学

11 月 22 日 (日) 講話、解散

#### (4) 報告会

日時未定 ※受講生と相談の上決定

## 情報産業論講義IX

(情報産業を駆動させるコミュニケーションとしての「広告」の本質を探る。)

植村 祐嗣 講師

(株式会社 電通)

A1A2 ターム 月曜5限(2単位) 時間割コード: 5A201009

### 授業の目標・概要

「広告」とは、広告主からの一方的な宣伝行為ではなく、企業と消費者との相互コミュニケーションとなっていなければ機能しません。

また「広告」とは、市場経済やマーケティングの潤滑油であり、新旧メディアやプラットフォーム経営の源泉であり、同時に貧富の差なくジャーナリズムやエンタテインメントを大衆に届ける役割を果たしています。

そのような「広告」の役割の本質に着目することで、そもそもコミュニケーションとはどうあるべきかを広く考察し、各自の人生観に活かしてもらいます。

### 参考書

日本インタラクティブ広告協会 (JIAA) 編著「必携 インターネット広告」(2019 インプレス)

### 授業計画

- 第1週 前提: 大学とは何か、実社会とは何か
- 第2週 概論: コミュニケーションとは何か
- 第3週 「I love you」は伝わるのか=価値提供
- 第4週 選ばれるために足りないこと=差別化
- 第5週 相手を知り、己を知る=相性
- 第6週 広告とは何か、広告の「7W1H」
- 第7週 企業経営における広告・販促・広報・PR
- 第8週 広告業界、広告ビジネス
- 第9週 GAF A等の広告(関連)戦略
- 第10週 法律・行政指導=業界自主規制=企業倫理
- 第11週 ネット広告のダークサイド
- 第12週 そもそもメディアとは何か
- 第13週 補遺、質疑応答

## 情報技術論実験実習Ⅱ

(東京大学制作展)

苗村 健 教授

通年 金曜4限(4単位) 時間割コード: 5A404002

### 授業の目標・概要

メディアやコンテンツの研究に取り組む学生を対象として、通年で開講する。7月と11月に展示会を開催するために、さまざまな表現手法を学び、それぞれが作品を制作する。また、受講者は企画や運営上の役割を担い、ディスカッションを通して展示全般のプロセスを実践する。最終的には、活動の概要をまとめたアーカイブ冊子を刊行する。

### 教科書・参考書

なし

### 授業計画

\*COVID-19等の状況を見ながら、下記の時期・段取りは変更する可能性があります。

- 4月 役割分担・7月展示(Extra)に向けたコンセプト確定
- 5月 Extraの広報発信・作品制作
- 6月 Extraの運営準備・作品制作
- 7月 Extra開催
- 8月 オープンキャンパス出展・11月展示(制作展)に向けたコンセプト確定・作品制作
- 9月 作品制作
- 10月 制作展の広報発信・運営準備・作品制作
- 11月 制作展開催
- 12月 アーカイブ冊子の製作
- 1月 アーカイブ冊子の完成

# メディア・ジャーナリズム論講義Ⅹ

石戸 諭 講 師

(バズフィード/フリーランス (元毎日新聞社))

A1A2 ターム 火曜5限(2単位) 時間割コード: 5A101009

## 授業の目標・概要

「インターネット時代における、ニュースの役割とは何か？」を大テーマに掲げて、講義を展開します。流行している表層的なフェイクニュース批判やファクトチェックに関する議論にとどまることなく、インターネットを活用したニュースのポジティブで可能な未来を構想すること。そして、新しい価値観を持ったニュースメディアの担い手を創出することを目標にしています。具体的な取材事例に基づき、考察を深めていきます。

## 参考書

石戸諭『リスクと生きる、死者と生きる』(亜紀書房、2017年)

石戸諭『ルポ・百田尚樹現象』(小学館、2020年)

## 授業計画

第1週 インターネット時代におけるニュースとは何か？

第2週 体験的新聞メディア論1

第3週 体験的新聞メディア論2

第4週 体験的インターネットメディア論1

第5週 体験的インターネットメディア論2

第6週 インターネットメディアの課題と可能性

第7週 ニュージャーナリズム論1

第8週 ニュージャーナリズム論2

第9週 雑誌、出版に可能性はあるのか？

第10週 インターネットを掛け合わせるメディア

第11週 「個人」ジャーナリズムの時代？

第12週 SNSと「分断」

第13週 分断を乗り越えるメディア論

# 情報社会論文献購読Ⅳ

(ビッグデータと社会統計学)

大野 志郎 助 教

S1S2 ターム 月曜4限(2単位) 時間割コード: 5A302004

## 授業の目標・概要

ビッグデータ分析や社会調査により、世界中で様々な情報が蓄積されている。その一方で、情報源の多様化に伴い、情報を正しく読み解くことが困難になっている。この講義では、社会問題、経済・ビジネス、医療・教育、メディアなど様々な領域における、統計データの読み解き方について学ぶ。指定の文献および関連する論文等をまとめ、授業内でのプレゼンテーションおよびディスカッションを行う。

## 教科書

FACTFULNESS 10 の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣、ハンス・ロスリング、オーラ・ロスリング、アンナ・ロスリング・ロンランド、日経 BP、2019年

## 参考書

ナンバーセンス ビッグデータの嘘を見抜く「統計リテラシー」の身につけ方、カイザー・ファンク、CCC メディアハウス、2015年

## 授業計画

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 社会調査法1 (平均値の検定)
- 第3週 社会調査法2 (回帰分析)
- 第4週 社会調査法3 (多変量解析)
- 第5週 世界の統計と分断
- 第6週 世界の統計とネガティブ思考
- 第7週 単純化と直線的思考
- 第8週 恐怖と過大視
- 第9週 パターン化とストーリー
- 第10週 問題解決と焦りの効果
- 第11週 ソーシャルとビッグデータ
- 第12週 マーケティングとビッグデータ
- 第13週 経済とビッグデータ

※実際のスケジュールと内容は、発表者の分担により決まる。

詳細についてはガイダンスで説明を行う。

## 情報技術論講義Ⅷ

(メディアテクノロジーとエンタテインメント)

中村 秀治 講師  
(株式会社三菱総合研究所)

A1A2 ターム 水曜 6 限 (2 単位) 時間割コード: 5A401008 (対面・オンライン形式)

### 授業の目標・概要

SNS や地上波テレビ番組のインターネット配信などのネットサービス、自動車の IT 化・メディア化、4K8K などの新たな放送技術、デジタルサイネージなど屋外広告による都市のメディア化など、これから拡大するメディアテクノロジーによるエンタテインメントビジネスの将来像を考えます。特に、本年は、新型コロナウイルスによる感染拡大の影響により、これまでのビジネス形態の継続が難しくなった多くのエンタテインメント事業について、メディアテクノロジーを用いた新たなビジネスの方向性を探ります。

講義では、テクノロジーの最新動向の紹介のほか、エンタテインメントビジネスに携わる専門家、実務者のゲスト講義を加え、実事業への実装可能性について議論します。講義のまとめとして、これからのエンタテインメントビジネスの拡大について、講義で習得したテクノロジーに関する情報も踏まえ、グループワークを実施する予定です。

### 教科書・参考書

なし

### 授業計画

- 第 1 週 イン트로ダクション
- 第 2 週 テクノロジー紹介・概論①
- 第 3 週 テクノロジー紹介・概論②
- 第 4 週 エンタテインメントビジネス紹介・コロナ禍におけるテレビ番組制作
- 第 5 週 エンタテインメントビジネス紹介・放送番組ネット配信
- 第 6 週 エンタテインメントビジネス分析・テクノロジー活用による音楽ライブビジネス
- 第 7 週 エンタテインメントビジネス分析・テクノロジー活用音楽ビジネスの海外動向
- 第 8 週 エンターテインメントビジネス紹介・音楽ライブ配信事業
- 第 9 週 屋外広告を利用した街のメディア化
- 第 10 週 ネットコンテンツ配信事業の将来像
- 第 11 週 エンタテインメントビジネス分析
- 第 12 週 グループワーク
- 第 13 週 グループワークと発表、ディスカッション

# 情報技術論講義IX

(ヒューマンコンピュータインタラクション概論)

濱田 健夫 特任講師 ・ ハウタサーリ アリ 特任講師

A1A2 ターム 木曜5限(2単位) 時間割コード: 5A401009

## 授業の目標・概要

我々はテクノロジーに囲まれ日々の生活を便利に過ごすことができているが、テクノロジーを利用するためにはユーザとの間を取り持つインタフェースが不可欠である。ヒューマンコンピュータインタラクション (HCI) はインタフェースを介してどのようにコンピュータと関わり利用するかについて焦点を当てた学際的学問分野である。この分野の研究成果を知ることでテクノロジーのデザイン手法を学ぶことができる。

本講義では HCI に関する幅広い研究トピックスを交えてデザイン原理や方法論について紹介するとともに、バーチャルリアリティ (VR) 技術を使ったグループワークを通して、インタラクションデザインの実習を行う。

## 参考書

『The Design of Everyday Things』, Don Norman

『オーグメンテッド・ヒューマン』, 暦本 純一

『VR は脳をどう変えるか? 仮想現実の心理学』, Jeremy Bailenson

## 授業計画

- 第1週 (10/1) オープニング, History of HCI
- 第2週 User Interface / Experience / Interaction Design (UI / UX)
- 第3週 Computer-Mediated Communication (CMC) and Affective Computing
- 第4週 Computer-Supported Cooperative Work (CSCW) and Social Media
- 第5週 Augmented / Virtual / Mixed Reality (AR / VR / MR)
- 第6週 Human Augmentation / Cyborg / Wearable Computing
- 第7週 Artificial Intelligence (AI) and Internet of Things (IoT) in HCI
- 第8週 HCI Methodology (ゲストスピーカー)
- 第9週 Interaction Design in VR (講義、グループワーク)
- 第10週 Designing with VR (グループワーク)
- 第11週 Designing in VR (グループワーク)
- 第12週 Designing for VR (グループワーク)
- 第13週 最終発表会 (グループワーク)

# 情報産業論実験実習VI

(出版・メディアビジネスと編集者の近未来)

谷口 優 講師  
(株式会社宣伝会議)

A1A2 ターム 月曜6限(4単位) 時間割コード: 5A204006

## 授業の目標・概要

出版市場に目を向けると、市場は縮小を続けています。しかし、出版の中でも特に雑誌に着目すると「販売収入を得る」以外の新しいビジネスモデルが国内外で次々と生まれています。本講義では、最前線の出版ビジネスの動向を探求しながら、そこにおける「編集者」の仕事の近未来について考えていきます。編集企画の立案・取材・執筆の実技も講義内で実施します。また講義名で「出版」と銘打っていますが、講師がマーケティングの専門誌の編集長をしていることから、雑誌の「編集者」としての視座に加え、担当メディアの専門領域である、広告・メディアビジネスについても、テレビ、ラジオ、新聞、さらに Web メディアと幅広く扱う予定です。この講義では、講師から出版・メディアビジネス・編集者の近未来の在り方についての「仮説」を皆さんに提示していきますので、その仮説について、皆さんなりの考えをディスカッションを通じて発表してもらいたいと考えています。そして、講義を通じて、出版・メディアビジネス・編集者の近未来の在り方について、自分なりの仮説を持ってもらうことを到達目標としています。

## 参考書

該当するものを随時講義内で紹介

## 授業計画

### 【①座学+ディスカッション】

1. オリエンテーション (講義の方針/講師が携わる仕事内容についての紹介)
2. 日本のメディアビジネスを取り巻く今日的課題 (マーケティング/広告ビジネスの観点から)
3. 国内外の出版社・新聞社における新たなビジネスモデル研究
4. 企業のマーケティング戦略の変化とメディア企業の新たなビジネス
5. 消費者の情報収集行動を踏まえたメディア進化
6. 編集者の仕事研究 (書籍/雑誌/Web メディア)
7. 企業とコンテンツメーカーの新しい関わり (変化する編集者の仕事、編集力が生きる新たな場)
8. 出版ビジネスにおける新しいマネタイズ方法 (雑誌メディアの特性から考える)

### 【②ワークショップ+実技】

9. 編集コンテンツ制作ワークショップ① 編集会議 (アイデア発想)
10. 編集コンテンツ制作ワークショップ② 編集会議 (構成案作成)
11. 編集コンテンツ制作ワークショップ③ 取材の仕方
12. 編集コンテンツ制作ワークショップ④ 記事執筆の仕方
13. 編集コンテンツ制作ワークショップ⑤ デザイン・レイアウト・文字校正

# メディア・ジャーナリズム論講義Ⅹ

(体験的・実践的ジャーナリズム入門)

福永 宏 講 師

(元・読売新聞社/元・東洋経済新報社・情報学環同窓会副会長) 他

A1 ターム 金曜 5・6 限 (2 単位) 時間割コード : 5A101010

## 授業の目標・概要

東京大学新聞研究所・社会情報研究所・情報学環教育部同窓会は教育部の出身者による講義を本年度も実施する。現在、新聞、放送、雑誌などのいわゆる「既成メディア」は、知識人、種々の政治勢力、統治権力、一般大衆などさまざまな方面から批判を受けている。これはわが国のみならず、米国でもみられるように世界的な現象といえる。さらに、経済的にもネットメディアに追い上げられて部数、視聴率、広告収入などの経済的面でかつてない厳しい状況に直面しており、こうした傾向は今後、さらに強まると考えられる。そこで本講義では、ネットメディアを含むジャーナリズムやメディアの現場で活動している本教育部出身者が自らの直接的な体験を踏まえ、現在の言論界の状況やジャーナリズムが置かれている実情を紹介・解説し、受講者と討論する。将来、メディアやジャーナリズム分野へ進もうと考えている者はもちろん、他分野への就職を考えている研究生にとっても、「現在」を理解するために有益な体験となるであろう。

## 参考書

『石橋湛山評論集』石橋湛山著／岩波文庫

『「ポスト真実」にどう向き合うか』八巻和彦編著／成文堂

## 授業計画

第1週 概論—言論／メディアと社会

第2週 体験的広告論

第3週 体験的映画論

第4週 体験的新聞論Ⅰ

第5週 体験的ネットメディア論

第6週 体験的新聞論Ⅱ

第7週 体験的テレビ論